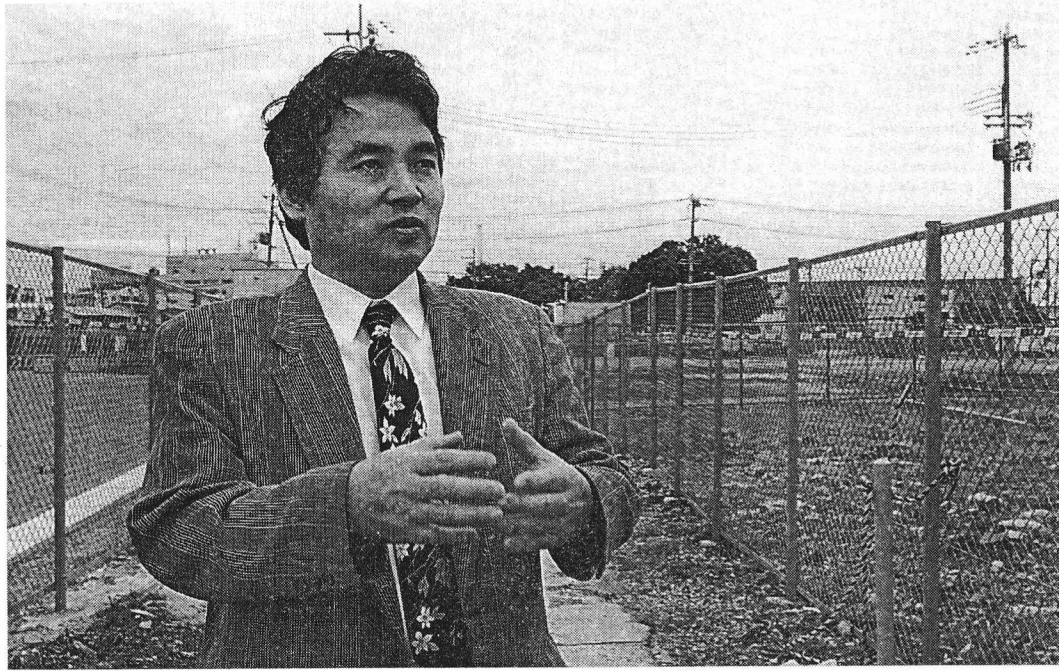


AMD A代表 菅波 茂さん

国にできない地方の役割



痛み知る4県で国際貢献を

震災を語る

ボランティアの募引 きはいつも難しい。AMD A(アジア医師連絡協議会)は阪神・淡路大震災の発生当日に神戸市長田区に入り、人道支援を展開した。そして一カ月で全面撤退。鮮やかな引き際、と評価する声がある。

ボランティアの募引 きはいつも難しい。AMD A(アジア医師連絡協議会)は阪神・淡路大震災の発生当日に神戸市長田区に入り、人道支援を展開した。そして一カ月で全面撤退。鮮やかな引き際、と評価する声がある。

回復が最優先だと思った。自分も開業医だから地元の医師の気持ちはわかる。また慢性疾患への対応が次第に増え、患者をよく知らないままの診察は医療事故

か弱い被災者とみなされ、支援を受けるばかりの立場はつらい。震災後の被災地で、私たちはそういう経験をしたいと思う。

菅波さんたちは、援助を受ける側の誇りを視野に入れた人道支援を原則としている。「かわいそうだから助ける」と「お互いさまだから助ける」との間には大きな差がある。そのことは私たちがまた肌で知ってい

戸を通過し、市民の炊き出しを受けたという歴史も理由のひとつだった。困ったときはお互いさま。相互扶助の精神が私たちの活動の原点にある。

活動の方針は必要とされれば、どこにも行く。「花のことは花に聞け」という世阿弥の言葉があるが、よそ者の節度と礼儀を持って現地の人に何か必要かをまず聞く。AMD Aの人道支援は、相手国籍の医師も含む多国籍の医師団を派遣する。援助を受ける側にもプライドがある。ボランティアが特に必要とされるのは大規模災害の発生から二週間。最初の三日間は行政が混乱し、臨機応変に動けるボランティアが絶対優位となる。手持ちの薬がなくなってくる

災害時の医療ボランティアの役割は行政の活動と住み分けるべき。ボランティアが特に必要とされるのは大規模災害の発生から二週間。最初の三日間は行政が混乱し、臨機応変に動けるボランティアが絶対優位となる。手持ちの薬がなくなってくる

行政は最初の三日間をボランティアに任せ、薬の用意など体制を整えることに力を注ぐとい

援助を受けた側ができることは弱者の痛みを知るからこ表が相次いで岡山に来た。テロ事件で「破算」だったが、

AMD Aは一九九一年以来、七十回を超え(国際貢献)の四県が合同の緊急人道援助を世界各国にしてきた。なぜなのか

たとえば、米国で同時多発テロが起きた昨年、ニューヨークで低所得者層の被災者支援をするユタヤ系の団体はAMD Aは一万がを寄付した。それは震災時に神戸で活動するAMD Aに五万がを寄せてくれたお返しの意味もあった。では、なぜ彼らが神戸の支援に寄付をしたのか。半世紀以上前、ナチスの迫害を逃れて米国に向かうユタヤ人が神戸を通過し、市民の炊き出しを受けたという歴史も理由のひとつだった。困ったときはお互いさま。相互扶助の精神が私たちの活動の原点にある。

アファニスタンの医療と平和構想も提案して

「かわいそう」でなく

菅波さんにお会いしたいと思ったきっかけは、沖縄の地方紙の記事だった。シンポジウムで、菅波さんは人道援助安全保障構想を訴えていた。

被災地兵庫と、激戦地になった沖縄、被爆した広島。そしてAMD Aのある岡山を結ぶのは、「かわいそうだから」という理由づけではない救援の思想だ。

取材ノート

震災直後、国内外から救援に駆けつけた人々に私たちが勇気づけられた。彼らの存在そのものがメッセージだった。

平和のためにできること。なんて言うと大きすぎるけれども、「お互いさま」という言葉を積み重ねれば、平和にたどり着けるのではないか。

記事・宮沢之祐
写真・藤家 武

すがなみ・しげる 1946年、広島県生まれ。岡山大学医学部在学中にアジアを10カ月間旅し、海外での医療に関心を抱く。81年に内科医院開業。84年にAMD A設立。昨年、NPO法人格を取得し、支部は30カ国に。近著に「医療と平和」(集英社)。

震災を語る

AMDA代表 菅波 茂さん



AMDA(アジア医師連絡協議会)は岡山市に本部を置き、災害や戦争による難民、被災者の医療に取り組んできた。初めて国内で緊急救援医療を展開したのが阪神・淡路大震災だった。その一カ月間、海外での経験が役立ったし、新たな教訓を得る

こともできた。大切なのは、活動を通して、どんなメッセージを発信するかだ。

27面にインタビュー